



ぽっぽ屋



輸送サービス労組 東京支部

2024.4.25
NO.095

福知山線脱線転覆事故から19年 事故を風化させてはいけない！

今のJR東日本は

当時のJR西日本と変わらない！

2005年4月25日午前9時18分、JR西日本福知山線塚口駅～尼崎駅間にて列車脱線転覆事故が発生してから本日で19年が経った。私たちは運転士・乗客107名の尊い命と562名の乗客が負傷した福知山線脱線転覆事故を風化させてはいけない。事故の直接の原因はカーブの制限速度を大幅超過によるものだがその後の事故調査委員会はミスした乗務員への懲罰的な再教育である「日勤教育」など、JR西日本の乗務員管理方法が関与した可能性が高いと報告している。当時のJR西日本大阪支社は「稼ぐ」を第一目標に掲げ、安全より利益を優先していた。まさに今のJR東日本と瓜二つといっても過言ではない。

JR東日本は2018年に「変革2027」を発表して以降、モビリティ部門から生活ソリューション部門へと大きく舵を切った。その結果、内房線での関係社員の感電死亡事故や大船駅での電化柱衝突事故、上野駅～大宮駅間での重錘ロッド破損による架線垂下及び感電負傷事故など、社員や乗客が死傷者する事故が相次いで発生している。また、この間一方的に進めてきた施策が現場を蝕んでいる。要員問題と業務の多能化により社員の疲弊だけではなく利用者へのサービスの低下にもつながり、このままではJR東日本管内でも取り返しのつかない事故が発生する。私たち輸送サービス労組は現場で働く仲間と共に、安全を軽視する会社に警笛を鳴らし、本来あるべき鉄道会社として正していく！